

2013 全道基地問題交流集会

北海道の自衛隊の変化について

2013年11月23日
北海道平和委員会 石田明義

第1、はじめに

平成24年12月の選挙で自民党政権・安倍第二次政権が復活。やり残した憲法9条改憲政策（戦争する国家）を手法を問わず速度をあげて前進させようとしている。

継続してきた防衛費削減をやめて防衛予算増額、民主党政権下の新防衛大綱・中期防衛計画の見直し、国家安全保障設置や特定国家秘密法へ着手。集団的自衛権の合憲解釈への強行的な前進と憲法9条改憲にむけた暴走の1年。

東日本震災で被災民救援に全部隊をあげて救援・支援活動が国民から91%の支持や評価されていることをよしとして、自衛隊を国防軍化する機会にしている。

冷戦を前提にした90戦車など重装備を中心にした陸上自衛隊が、近代化・即応化、JHP外化と集約化などがスクラップ・アンド・ビルト化が進められている。

訓練は南方重視、島嶼戦略をテーマに実戦的な訓練が進んでいる。海外でも米海兵隊、米陸軍、米空軍など実戦的な訓練をし、道内の大中の自衛隊基地を活用した自衛隊、米軍の訓練に活用がされている。予定されている新防衛大綱でも道内の基地の一層の活用がいられている。

20年目になる日本PKO。活動が積み重ねられてきた。PKO派遣の要件や活動権限や武器使用の権限の拡大などが検討されている。PKOなどの国際待機部隊として重視されている北海道の陸上自衛隊が戦闘や戦争の引き金になったり、巻き込まれる可能性が拡大している。

南西重視戦略にシフトした実戦訓練は、日米間・自衛隊三軍の統合指揮が平素から可能になっている。自衛隊と米軍との共同演習などと各種の訓練が連動した実戦訓練になっている。

沖縄の在日米軍を中心にした海兵隊の実弾射撃移転訓練、米航空自衛隊の移転訓練が引き続き、ローテーションで行われている。オスプレイをしようした日米共同訓練や自衛隊のオスプレイ導入も現実性がある。いつでも、どこでも、いつまでも自衛隊が海外派兵できる準備ができつつある。

第2、北海道の自衛隊の現状と変化

1、 冷戦の北方脅威(?)の喪失→北海道の陸上自衛隊のリストラとビルト化
道内陸上自衛隊の部隊改廃と定員削減、

部隊と隊員の精鋭化を図る(一部海兵隊化を想定。西部方面隊西浦基地レンジャー資格者を集めた隊部)

道内でも陸上自衛隊の精鋭の強化

(東千歳での都市型訓練施設 各駐屯地のゲリ・コマ掃討作戦訓練、冬季レンジャーなどの訓練)

南方転地演習(長距離移動訓練)、連動した九州・沖縄での日米統合訓練に参加(また米韓合同訓練に連動)

海空自衛隊を重視→米国のシー・アンド・エアー・バトル戦略採用(中国接近拒否戦略に対する米国政策・日本の補完する南方重視、島嶼作戦)

民間企業の活用

(フェリー、航空、JRなど民間利用・自衛隊は「戦う部隊」へ集中と重点化

自衛隊の曹以上のクラスの削減、早期退職勧奨

若い士クラスを増加計画(IT化対応。海兵隊化も)

2、 陸上自衛隊

道内陸上自衛隊の定員削減、基地の縮小が進んでいる。

師団から旅団に部隊規模が縮小。第5旅団、11旅団化

90式戦車の第7師団の変革 道内陸自の大型戦車の役割の減少

戦車削減(半減400両へ、なお200両へと削減) 第1戦車群の廃止

定員も削減

北方脅威から南西脅威へ重点が移動(島嶼防衛)

平成23年南方転地演習に連動して日米実働演習に参加(23年、24年度も)

平成25年は南方転地演習→西方自衛隊統合演習へ参加(道内ミサイル部隊宮古島へ移動(24年度は横浜港から第5旅団沖縄へ参加)

海外で米国と共同訓練

(第5旅団(23年)、第2師団(24年))

効率化、合理化→ハイテク化、情報集約、専門化（専門部隊化）→リストラ
（防衛省「2020年陸上自衛隊の将来構想」案（自民党政権）→道内陸自4万5000人→3万人（現在3万7000人）

自治体、住民を巻き込んだ軍事訓練

24年9月・奥尻、天売、焼尻、利尻、礼文（武力攻撃事態→国民保護 島民救出訓練を実施）25年は天売島で災害救助活動として自衛隊参加ほか

◆第2師団（旭川）の実験のための部隊化（IT実験化。陸上自衛隊の新しい姿を実験・模索中である）

アメリカで実験の成果を共同訓練で実施（24年9月10日～24日）ヤマキ演習場で実施。C4ISR（指揮・統制・通信・コンピューター・情報、監視、偵察）実権。22年日米合同演習（上富良野）25年は矢白別演習場で実施。

実権部隊化は部隊2014年完成予定とのこと。成果が十分ではないと軍事評論家評。

◆第11師団（真駒内）旅団化

北部方面隊。治安出動部隊化（例。サミットの出動待機体制）

道警と陸上自衛隊が25年全国二番目の原発テロ対策の共同訓練実施（11月）

新型インフルエンザ対策（全国最初に生物化学兵器対策訓練を実施 08年）

真駒内の化学防護隊は福島原発事故に出動

海外での治安出動訓練、平和維持活動 海外を想定し英語など教育実施

◆第5旅団（帯広）戦闘部隊として集中的に訓練を実施

海外での米軍との都市型訓練（24年）

南方転地演習（第2師団、11旅団を中心に。23年は第7師団が戦車を公道走行、真駒内港から日出生台に。24年は第5旅団の戦車を分解して移動。公道走行せず→日出生台で戦闘訓練に参加。）

第5戦車隊（23年度廃止）

13年に旅団唯一の化学防護隊新設（なお、防衛省が帯広畜産大学に生物化学関連？の研究委託（赤旗）

◆第7師団（千歳）戦車軽量化 大型戦車の削減。

東千歳の都市型訓練施設での戦車も参加の訓練

第1戦車群廃止(25年度)90式戦車

10戦車の導入(平成25年度)

11旅団(真駒内)戦車大隊が移動(74式戦車60両350人→90式戦車30両190人規模)

北海道はこれまで「総合」近代化師団に指定→第7師団が「即応」近代化師団へ移行(平成25年度から)「即応近代化」は本州部隊が指定されていた。

◆23年度 北方混成団が発足(統合)。

北方教育連隊(東千歳)を廃止。

120教育大隊((真駒内)52普通連隊(真駒内,旭川,帯広)と第1陸曹教育隊(東千歳,倶知安)を新編、冬季戦技教育隊(真駒内)も隷下部隊に。北部方面隊が一元管理(直属)

◆25年北部方面情報隊(統合新設)

情報処理隊が2の沿岸監視隊を統合し、無人偵察機隊を静内に新設(静内駐屯地の第101無人偵察機隊)は[第1高射特科団](#)の隷下とは無関係)

◆青函以南・首都圏への国内派兵と海外派兵の待機部隊

自衛隊、転地訓練は道内部隊の南方への移転訓練

移動ルート、フェリーの利用。鉄道貨物利用、国道陸上移動、航空機(東京→東富士、大分)

24時間から48時間以内に現地への移動を想定(東日本大震災で活躍)例/第2師団26普通(留萌)小樽港経由で東北震災へ最初に移動展開(48時間以内)

◆海外派兵の短期間での対応可能(待機)

07年3月28日、中央即応集団が発足(海外派兵即応専門部隊)約3,200人海外派兵を本来任務化。

中央即応集団につづく本部隊に、北部方面隊が派兵の中心となる

(イラク 第2師団派兵まで3ヶ月, 第5旅団ハイチ派兵まで2週間、第5旅団 南スーダン派兵1ヶ月)

南スーダンは戦闘地域、第二師団がゴラン高原に。戦闘地域

北海道は常時待機体制 1,260人で編成され訓練・待機。

軽装甲機動車の配備などにより「機動力が高まり、より機能的になる」

(師団) 米軍ストライカー旅団がモデル (高速輸送船や大型輸送機で 24～48 時間で展開可能部隊)

◆道内の陸上自衛隊は警察と連携。「治安維持部隊」として先端的役割首都圏など国内治安派遣を想定。

洞爺湖サミットでの自衛隊の参加・配備や経験。

道内各地で警察, 自衛隊が行政, 住民を巻き込んで多様な実働共同訓練を実施。

25 年、原発テロ対策で道警と陸上自衛隊共同訓練(11 月)

3、航空自衛隊

千歳の航空自衛隊は、三沢、岩国などの米軍などと共同訓練を実施してきた。ほかの地域での移転訓練にも参加している。

コープサンダーなどでカナダへの移転訓練に空中給油機で補給を受けて参加。

07 年から米軍再編で千歳で移転訓練

国内各地の米空軍との共同訓練の機会が拡大

11 年から移転訓練がグアムで実施 (自衛機も)

空中給油機使用による高度な実戦的な戦闘訓練と長距離輸送や移動訓練が可能 (オスプレイへの空中給油も可能)

自衛隊もオスプレイ導入 (日米共同訓練・饗庭野では参加。高知では台風で中止。基地公開で展示計画)

4、海上自衛隊

米軍との共同演習

これまで入港 小樽・石狩新港・函館・室蘭・苫小牧・釧路、稚内港へ米鑑イージス艦など入港した実績がある

1997 年、日米防衛協力の「新ガイドライン」で日本周辺有事の際の米軍が民間港湾を利用を合意。

北朝鮮のミサイル問題を契機に奥尻西方海域に米イージス艦を配備 (北朝鮮が米国へ発射ミサイルを監視・捕捉)

自衛隊艦も共同参加している (情報の共有化, 訓練) (

米艦船の寄港地での協力関係や補給体制の整備を強化する目的

米空母は小樽港、室蘭港への寄港

対中国戦略の重視。

米軍のアジア太平洋地域への空母二隻配備する体制。
「東アジア」と「不安定の弧」地域に対する二正面体制の対応
補給・休養・メンテナンス（準母港化）→西では佐世保港の準母港化
室蘭・小樽港の地位協定の「密約」の存在（優先使用合意の存在）（琉球
新報の地位協定の考え方 秘密）

5、米軍・米国のミサイル防衛の体制に組み込まれ

ミサイル防衛レーダーサイトの新設や拡充（航空侵犯、ミサイル防衛）
当別（ミサイル防衛に対応型）奥尻、襟裳，根室のレーダー，
長沼、八雲、千歳のパトリオット2ミサイル配備
海上で米イージス艦配備と米本土への中国、北朝鮮からのミサイル監視レ
ーダーとして役割分担